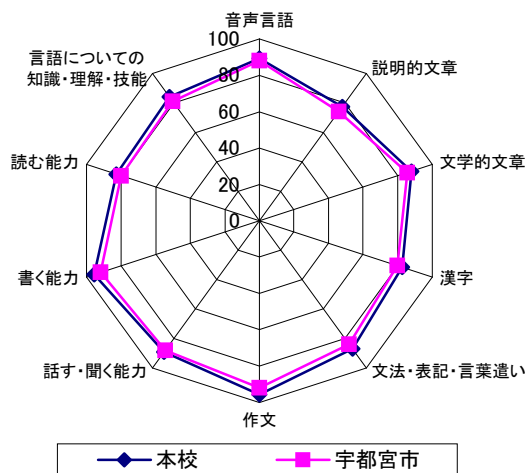


宇都宮市立豊郷中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	89.3	88.1
	説明的文章	77.5	74.3
	文学的文章	87.8	85.6
	漢字	82.6	79.8
	文法・表記・言葉遣い	87.1	83.9
	作文	95.7	91.9
観点別	話す・聞く能力	89.3	88.1
	書く能力	95.7	91.9
	読む能力	82.7	79.9
	言語についての知識・理解・技能	84.1	81.1



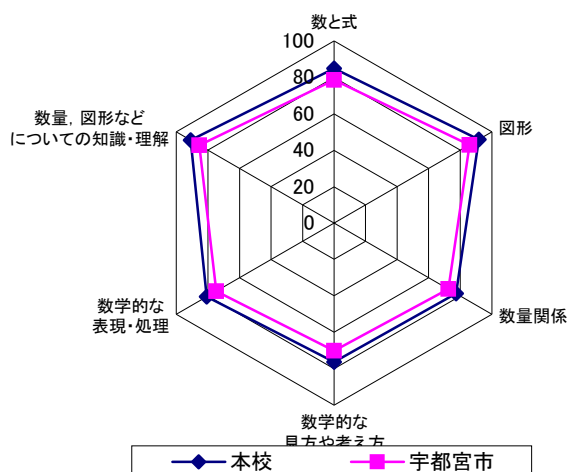
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (89.3%)	市の平均と比較すると1.2ポイント高い結果となった。正答率が9割ちかきということは小集団学習による話し合い学習が効果をあげているものと思われる。学級の生徒全員の前ではなかなか自分の考えや意見をのべるのが苦手でも小集団のなかでは活発に発言できる生徒は多い。	話すことや聞くことは日常生活においても大切なコミュニケーション能力であることを考えるとその能力を育成することは喫緊の課題である。スピーチやディベートを表現教材の学習場面のみで扱うのではなく理解教材等の発展学習として取り入れることで音声言語の能力を身につけさせたいと考えている。
説明的文章 (77.5%)	市の平均と比較すると3.2ポイント高い結果となった。	論理的文章の読解の指導では筆者の意見や考えを述べた部分と事例や検証を述べた部分に分けられることを押さえることを主眼におきたい。論理的文章の基本的な組み立ては序論・本論・結論にあることや筆者の結論に至るまでの論述の過程を丁寧に読み取ることを指導の重点にしたい。
文学的文章 (87.8%)	市の平均と比較すると2.1ポイント高い結果となった。	文学的文章の指導は登場人物の心情の読み取りや場面の移り変わりの読み取りを基本として指導していきたい。それに付随する情景描写などからわかる人物の心情なども併せて重要な点であることをおさえて指導したい。詩などの韻文においてはことばのもつ象徴性や喩えについても表現技法と同時に指導したい。
漢字 (82.6%)	市の平均と比較すると2.8ポイント高い結果となった。	小学校で習得した漢字に加えて中学校での新出漢字については形・音・義の漢字の三要素を生徒に意識させて習得させたい。反復練習のみでは漢字嫌いな生徒が増えることが懸念されるので、漢字習得の意義を教えながら指導したい。また、漢字の小テストを実施し、いっそうの定着をはかりたい。
文法・表記・言葉遣い (87.1%)	市の平均と比較すると3.2ポイント高い結果となった。	日本語の使い方の約束が文法であることをふまえて、継続的な指導をしていきたい。機械的な覚え方でなく、文法学習の成果が作文等の表現活動にも大きく影響することや他人に伝えるときによりよく、かつ効果的な表現になることを伝えながら指導していきたい。
作文 (95.7%)	市の平均と比較すると3.8ポイント高い結果となった。	文字言語による表現は前述した文法や語彙の問題とも大きくかかわるので、基本的には切りはなすことができないことである。また、今後も「読み」の教材の発展学習として400字程度の文章をかくことによって作文の能力の育成を継続的におこないたい。

宇都宮市立豊郷中学校第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	84.8	78.5
	図形	91.7	85.7
	数量関係	77.4	72.4
観点別	数学的な見方や考え方	76.2	70.2
	数学的な表現・処理	80.9	74.7
	数量、図形などについての知識・理解	90.9	85.4



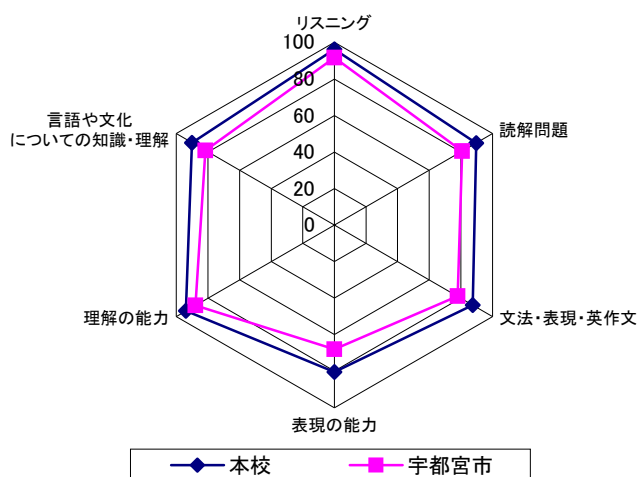
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (84.8%)	この領域の平均正答率は、昨年度の本校正答率を上回る結果であった。宇都宮市の平均との比較でも6.3%上回る結果であった。特に、「文字式の計算」や「文字式の表し方」では宇都宮市の平均を大きく上回っており、十分に理解している生徒が多い。	この領域の授業では習熟度別学習を実施し、更にチームティーチングによる指導で繰り返し、計算練習を行っていたので、よい結果が得られたと思われる。今後も習熟度別学習やチームティーチングを効果的に用いて、基礎基本の定着を図っていききたい。
図形 (91.7%)	この領域の平均正答率は、昨年度の本校正答率に比べて10.9%上回る結果であった。「線対称」「点対称」については、95%以上の正答率であり、多くの生徒が大変よく理解できている。また宇都宮市の平均よりも大きく上回っており、「平面図形」についての基礎基本が確実に身につけている生徒が多い。	図形については、他の領域よりも問題数が少ないためかほとんどの生徒が正解できたと思われる。今後、2年生の「図形の証明」につながるように、図形領域に生徒たちが興味関心をもつ授業を工夫していきたい。
数量関係 (77.4%)	この領域の平均正答率は、昨年度と同程度の結果であり、宇都宮市との比較でも5%上回っている。「比例・反比例のグラフ」に関する問題は、宇都宮市の平均よりもできているが、正答率は68.5%であった。「比例の利用に関する問題」は、83.2%の正答率で大変よくできている。	本年度、この領域の指導時期は新型インフルエンザの流行期と重なり、比例・反比例のグラフの基本を十分理解できないままにテストに望んだ生徒が多かったと思われる。今後の授業で、再指導する機会を設けて、この領域の基礎基本の定着を図りたい。

宇都宮市立豊郷中学校第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	96.1	91.5
	読解問題	89.7	80.8
	文法・表現・英作文	87.5	77.8
観点別	表現の能力	80.4	68.0
	理解の能力	93.8	87.7
	言語や文化についての知識・理解	90.1	81.5



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (96.1%)	この領域の平均正答率は、昨年度の本校の正答率を上回る結果であった。宇都宮市の平均との比較でも4.6%上回る結果であった。	教科書の各単元についているリスニング練習を地道に積み重ねたり、毎回の授業で教師がクラスルームイングリッシュを使ったりしていく。またウォームアップとして会話活動などを設定し、生徒が聞くだけでなく聞いたことに応答することで、ただ聞くだけでなく、能動的・積極的な「聞く」という体験をして、相手の意図を読み取る力をつけていく
読解問題 (89.7%)	この領域の平均正答率は、昨年度の本校の正答率を上回る結果であった。宇都宮市の平均との比較でも8.9%上回る結果であった。	予習を奨励し、単語の意味をしっかりとつかんで教科書の本文を理解する経験を多くさせる。また、指示語や代名詞の内容を明らかにしたり、ユニット間の話のつながりを生かして本文を読み取る作業を行い、文章同士の関係を意識し、行間を読む力を育てたい。
文法・表現・英作文 (87.5%)	この領域の平均正答率は、昨年度の本校の正答率を16.6と大きく上回る結果であった。宇都宮市の平均との比較でも9.7%上回る結果であった。例年表現の能力は理解や知識と比べると30ポイントほどの差がある分野だが、今年度は他の2分野と比べても10%程度の差しかなくバランスの良い学力が	単語、熟語や文法事項など重要な表現は覚えているが、それを自分で場面に応じて適切に使える生徒は多くはない。実際にその英語を使用する必要がある場面を設定し、会話や文脈の中で必要な表現を自分で選択して使う能力を育てたい。